



Title	大韓民国における言語景観小攷：鉄道路線図の駅名表示に見られる日本語表示を例に
Author(s)	植田，晃次
Citation	言語文化共同研究プロジェクト．2015，2014，p. 23-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/54343
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大韓民国における言語景観小攷

一鉄道路線図の駅名表示に見られる日本語表示を例に一¹

植田晃次

1. はじめに

日本以上に単一民族国家意識が強烈であった大韓民国(以下、韓国)において、近年、観光客の増加のほか、労働者や結婚移住者の流入により、その社会状況は変化しつつある(植田 2009、2010、2014)。そのような状況の下、主に都市部で、多言語表示が日常的に見られるようになった。たとえば、地下鉄の駅名標の多言語化などは日本に先んじていた感もある。

日本では、社会の多民族化・多言語化が顕在化するにつれ、社会言語学の観点から言語景観(linguistic landscape)に関する報告や研究が盛んに行われるようになってきている(庄司 2006、庄司・バックハウス・クルマス 2009、中井・ロング 2011 など)。韓国では、都市計画等の分野での研究は見られたものの(成順済 1990・朴正姫 1990・キム=ランギ 2006 など)、社会言語学の観点からの言語景観の研究は未だ盛んではなく²、『社会言語学辞典』(韓国社会言語学会 2012)でも、「언어경관」(言語景観)という項目は立項されていない。

日韓両国で、韓国の言語景観を扱った論考もあるが、韓国のみを対象としたものは鮮少である(磯野 2011、市島 2011、李舜炯 2011 など)。この他、日韓対照のもの(梁敏鎬 2010、2011、2012、2013a、2013b)を除けば、執筆者が日本人にせよ韓国人にせよ、多くは日本を対象地域とするに止まる。また、その主たる関心も多言語表示の内容分析や分布などに向けられている。

本論文の筆者は、「どづぞ」という概念を援用し、日本各地に見られる「不正確な」多言語表示の様相を報告するとともに、その体系化を試みた(柳沢 2010・植田 2015)。韓国に係る言語景観研究の概要は上述の通りであり、韓国内の多言語表示、とりわけ公共機関におけるその「不正確さ」(あるいは「正確さ」)について論じたものは管見の限りでは見られない。本論文でいう「不正確さ」とは、利用者にとって「わかりやすく有用である」という判断基準に照らし合わせ、様々な要因により生じた不正確さ・不統一・珍妙さなどを含めたものを指す。

本論文では、韓国ソウル特別市の鉄道³の車両内に設置された路線図の駅名表示の日本語表示を例に、そこに見られる問題点を考察することを目的とする。さらには多言語表示がどのような「正確さ」のレベルで作成されるのかという点を手掛かりに、それが「何のために設置されるのか?」について、わかりやすく有用な表示という観点から基礎的な検討を試みる。

¹ 本稿での言語・民族等の呼称は、植田(2002)で示した観点による。

² 梁敏鎬(2010:48-49)も、「韓国では言語景観という用語も珍しく、先行研究もあまり見当たらない。都市計画の中の言語景観研究はいくつか見られるが、それは言語学的なアプローチではなく地理学的な視点からの研究である。」と指摘している。李舜炯(2011:38)にも同様の指摘がある。

³ 一部は市外にも延伸されている。

なお、韓国での多言語表示は韓国の国内問題であり、如何に不正確さ・不統一・珍妙さであろうと外国人が積極的に介入する問題ではない。しかし、その表示に外国人の不便の軽減という思惑があるとすれば、利用者側としてよりわかりやすく有用な表示という視点から所感を述べるのも無用ではなかろうというのが本論文の筆者の立場である。逆に日本での多言語表示の朝鮮語表示の問題に対しては日本の国内問題として主体的に解決して行く性質のものである。

2. 対象と方法

本論文では韓国ソウル特別市の旧国鉄と地下鉄1路線ずつを取り上げる。分析の対象としたのは、韓国鉄道公社の京義中央線とソウルメトロの地下鉄3号線⁴である。この2路線を対象とするには、資料を得やすかったこと、固有名詞に普通名詞を含む駅や英語起源の外来語を含む駅があること、2駅で両路線が交差していること、また、朝鮮語の様々な表記と発音の乖離を含む駅があること等を考慮した。

調査は2015年3月12～17日に行い、当該路線の車両内(乗降口上)に設置されている路線図(写真1)をデジタルカメラで撮影し、それを基に分析した。写真はすべて本論文の筆者が撮影したものである。両路線とも駅ごとに、朝鮮語の他、英語(固有名詞のローマ



写真1 路線図(3号線B)

ンアルファベット表記を含む)・日本語・漢語(中国語)が併記されている(写真2)⁵。本論文では、紙幅の制限により日本語表示のみを対象とし、その他の言語の表示は一部について参考言及するに止める。

3号線については、少なくとも2種類の路線図が見られ、日本語表示に差異が散見されたため、路線図右の方向転換の書き方の違いによりA(直角)・B(弧)として両者を取り上げる。それぞれの設置時期は不明だが、デザイン等から判断して、Aのほうがより古いものではないかと推測される。これらの朝鮮語駅名と日本語駅名を対照して示したものが表1・2である。表の左上が一方の始発駅であり右に進む。朝鮮語駅名の下が日本語表示である。なお、分岐は表末に注記した。



写真2 駅名表示1
(京義中央線)

문산	파주	월릉	금촌	금릉	운정
ムンサン	パジュ	ウォルロン	クムチョン	クムヌン	ウンジョン
탄현	일산	풍산	백마	곡산	대곡
タンヒョン	イルサン	プンサン	ペンマ	コクサン	テゴク

⁴ 1～4号線はソウルメトロ、5～8号線はソウル都市鉄道、9号線はソウルメトロ9が運営している。

⁵ 各駅に設置された駅名標では、基本的には朝・日・漢・英が見られるが、多言語表示の対象者の乗降の多寡によって、示される言語数に違いがあるようである。例えば、観光地などでは4言語が併記されるが(3号線鍾路3街など)、そうでない場合には朝・漢・英の3言語(3号線蚕院など)や朝・英の2言語(3号線ハンニョウルなど)の場合もある。田中(2009:12)は日本の公共機関による多言語表示のガイドライン類では、「日英二言語、または、日英中韓四言語の組み合わせによるものが、「標準モデル」となってきた」と指摘している。

능곡	행신	강매	화전	수색	디지털미디어 시티
ヌンゴク	ヘンシン	カンメ	ファジョン	スセク	デジタルメデ ィアシティ
가좌	홍대입구	서강대	공덕	효창공원앞	용산
カジュワ	ホンデイック	ソガンデ	コンドク	ヒョチャンゴ ンウォン애프	ヨン산
이촌	서빙고	한남	옥수	응봉	왕십리
イチョン	ソビンゴ	ハンナム	オッス	ウンボン	ワンシムニ
청량리	회기	중랑	상봉	망우	양원
チョンニヤンニ	フエギ	チュンナン	산بون	만우	얀우온
구리	도농	양정	덕소	도심	팔당
클리	토논	얀죠히	토쑈	토시ム	팔탄
운길산	양수	신원	국수	아신	오빈
ウンギルサン	ヤンス	シヌオン	クッス	アシン	オビン
양평	원덕	용문	右 2 駅はカジ ュワから分岐	신촌	서울역
얀피죈	우온도크	욘문		신죈	소울옉

表 1 駅名の日朝表示の対照(京義中央線)⁶

대화	주엽	정발산	마두	백석	대곡
テファ	チュヨプ	チョンバルサン	マドゥ	ペッソク	テゴク
화정	원당	원흥	삼송	지축	구파발
ファジョン	우온단	우온분	삼송(三松) 삼송	치츄크	구파발
연신내	불광	녹번	홍제	무악재	독립문
욘신네	플그안	노크폰 노쑈폰	혼제	무악재	독립문
경복궁	안국	종로 3가	을지로 3가	충무로	동대입구
키온보그넌 키온보크넌	안그크	죈노산가 죈노삼가	울치로산가 울치로삼가	츄문로	톤데이크
약수	금호	옥수	압구정	신사	잠원
야스	크ム호	오스	아그죈 아크죈	신사	츄문 츄문

⁶ 효창공원앞は未開通。화전(한국항공대)など()内の補足は日本語表示には表れていないため省略した。

고속터미널	교대	남부터미널	양재	매봉	도곡
コソクターミナル	キョデ	ナンブターミナル	ヤンジエ	メボン	トゴク
대치	학여울	대청	일원	수서	가락시장
테치	ハギョウル ハンニョウル	테치ョン	イルウ온 イル온	스노	카라キシジャン
경찰병원		오금			
키ョンچار비ョン우온		오그ム			

表 2 駅名の日朝表示の対照(3号線)⁷

路線図を設計する立場から、長尾・柴田(2002:1)は鉄道路線図の役割について、(1)それを見た鉄道利用者に出発地点である駅から目的地である駅までのルートを示すこと、(2)鉄道路線網の認知地図(cognitive map)を形成させ、鉄道路線図を見ることができなくとも、出発地から目的地までのルートの検索を頭の中でできるようにすることの2点を挙げている。長尾らは複数路線からなる広域路線図を念頭に置いているが、本論文の対象の単一路線の路線図にも、ことに(1)については同様の役割が期待されていると見て差し支えなからう。

3・4章では、朝鮮語がわからない日本語母語話者がソウルで目的の駅に行く際にどのような表示がもっともわかりやすく有用かという判断基準の下にこの日本語表示を質的に検討する。

3. オトの翻訳とモジの翻訳

日本語表示には、(1)朝鮮語の近似音をカナのみで表記したもの(ムンサンなど)、(2)相当する漢字を括弧書きで(1)に付記したもの(サムソン(三松))⁸、(3)日本語に翻訳したもの(デジタルメディアシティなど)の3パターンが見られた。このうち(1)が圧倒的多数を占める。これは全斗煥大統領の訪日を契機に日本での朝鮮文化圏の固有名詞の扱いが、漢字表記の日本漢字音読みから「原音読み」に(再)転換して(井上 1984)30 年余り経つ現況とも符合する。

本論文では、植田(2003:23)で述べた観点から、문산がムンサンとカナ書きされた(1)の場合を「オトの翻訳」とともに、「モジの翻訳」がなされたものとして論を進める⁹。

3号線A・Bでは、同一駅名の表示に異なる表記が充てられた場合が9件あり(表2太枠部)、3章ではこれを検討の対象とする。内1件は漢字の有無の異なりである(2)の例であるため除く。

まず、チョンノサンガ／チョンノサムガ・ウルチロサンガ／ウルチロサムガ(중로3가・을지로3가)について見る。共に3가[samga]の[m]をAではン、Bではムで表記している。この異なりの要因は次の通りである。両唇音が後続する撥音の場合、環境異音として[m]として発音

⁷ 대화(킨텍스)など()内の補足は日本語表示には表れていないため省略した。日本語表示が2段のものは、上段がA、下段がBの表示である。

⁸ (2)の例はこの駅のみであった。漢字の裏付けのある他の駅名にはこのような併記は見られず、この駅の路線図Aでのみこのような表記になっている理由は推測不可能である。

⁹ 植田(2003:23)24行目の「「オトの翻訳」がなされ、」には脱字があり、「「オトの翻訳」とともに「モジの翻訳」がなされ、」が正である。ここに訂正する。

される。しかし、上の2例で後続するのは軟口蓋音であり、それには当たらない。また、非標準的口語発音では、逆行同化が起こり[m]が[ŋ]のように発音されることもあり得る。さらに、ムは母音を含むため聴覚印象としてはンのほうが近いという判断があるかもしれない。

第2に、ハギョウル／ハンニョウル(학여울[hagnjoul])について見る(写真3・4)。この駅名は鶴を表す漢字語학[ha^k]と瀬を表す固有語여울[joul]から構成されている。合成語等で先行要素が閉音節でかつ後行要素が[i]または[j]で始まる際、[n]が挿入される場合がある。ここではさらに逆行同化で[k]が[ŋ]に鼻音化するために、[hagnjoul]と発音される¹⁰。そのため、Bの表記ハンニョウルが発音に近似した表記と見て差し支えない。とすれば、Aの表記ハギョウルは、多言語表示設置の過程¹¹で表示内容決定者によって、なぜこのように珍妙な表示内容に決定されてしまったのであろうか。如上の表記・発音上の規則をまっとう

に理解していない非母語話者が、単純に終声の初声化(いわゆる連音)を起こすかのように誤解して表記を決定した、もしくはたとえ母語話者であっても同駅に馴染みのない者が合成語であることを見抜けずに確認することなしに同様の誤りを犯したと推定できる。

第3に、チャムウォン／チャムオン・イルウォン／イルオン(잠원[jamwɔn]・일원[irwɔn])について見る。[w]を含む音節が生成される終声の初声化の際、チャムオン・イルオンとしたBの表示内容決定者は、終声の初声化による[mwɔ]・[rwɔ]を表記に反映させようとして、ムオ・ルオという日本語の表記では通常用いられない文字列によって表記しようとしたと見られる。他方、チャムウォン・イルウォンとしたAの表示内容決定者はムウォ・ルウォという表記でなんとかそれを表そうとした¹²、あるいは終声の初声化を考慮せずに[jam][wɔn]・[il][wɔn]のように音節文字ごとに区切って表記しようとしたためこのような表記を採ったと見られる。

第4に、残りの3例を見る。これらは口音の終声の後続子音の濃音化の表記に係るものである¹³。キョンボグン／キョンボクン・アグジョン／アックジョン(경복궁[kjɔŋbo^{kʷ}kun]・압구정[a^{pʷ}kudʒɔŋ])ともに口音の終声の後の濃音化した子音を濁音で表記するか清音で表記するかによる異なりである。Aでは[k]・[p]の後の濃音が濁音でグ、Bでは清音でクと表記されている。しかし、々번では、Aではノッボンと[p]が濁音で表記されそうであるにも拘わらず、

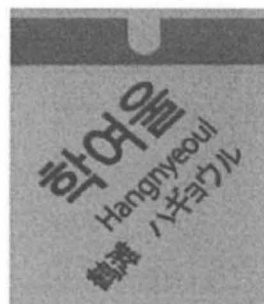


写真3 駅名表示2
(3号線A)

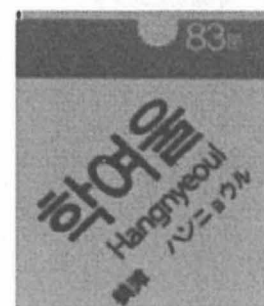


写真4 駅名表示3
(3号線B)

¹⁰ 2015年3月17日、同駅の駅名標のローマンアルファベット表記も Hagnyeoul となっておりと同時に、同駅到着時の車内アナウンスでもこのように発音されていることを確認した。

¹¹ 多言語表示が設置されるまでのプロセスについては、植田(2015:201-203)を参照されたい。

¹² 梅田(1989:29)が、「韓国語の発音教育の補助手段としての片仮名表記」と「韓国語の単語を表記するための片仮名表記」の区別の必要を指摘している点は重要である。

¹³ ここでは口音の終声はともに促音で表記されているが、その問題については措く。

A・Bとも清音で表記されている上に、口音の終声[k]がクとッの異なる表記となっている。

以上を見るだけでも、同一の表示内容決定者が決定したとみられる表記にすら、日本における朝鮮語「どづぞ」と同様に(植田 2015:182-184)、一貫性・体系がないことがわかる。

朝鮮文字で日本語を表記する際の規範は、南北朝鮮と中国でそれぞれ定められている(植田 2015:191)。他方、日本にはこれらに相当する規範が朝鮮語のカナ表記に関してはない。さらに、朝鮮文字が日本語の音を正確に表し得ないのと同様にカナもまた朝鮮語の音を正確には表し得ない。そのため、ある朝鮮語をモジの翻訳しようとする際、様々な異なる表記がなされるのも如何ともし難い¹⁴。例えば、京義中央線の화전[hwadʒon]と3号線の화정[hwadʒon]はともにファジョンと表記されており、カナ表記のみからは区別がつかない。さらに上で見たように、終声の初声化に限らず、子音に半母音[w]が後続する場合、これをモジの翻訳しようとする際には困難がある。例えば、俳優のクォン=サンウ(権相佑)の場合、姓の권[kwon]をクォンと表記して、なんとか半母音[w]を表そう試みているが、2015年春の選抜高校野球に出場した東海大四高のゴン=トウォン(権濤源)選手の姓は、半母音を無視して表記したものと見られる¹⁵。

母語話者にせよ非母語話者にせよ、表示内容決定者がそれぞれの方針で、あるいは方針などではなく思い付きで、あるいは直感的に表記をいい加減に決定し、百花斉放の様子を呈すことによって、わかりにくく有用ならざるその結果物が産出され、本来受益者となるはずの利用者が不利益を蒙るという事態も十分引き起こさせるのである。少なくとも不特定多数を対象とする公共の場においてはカナによる朝鮮語の表記法の原則の策定が必要と言うこともできよう¹⁶。

4. イミの翻訳

ここでは殊に駅名に普通名詞が含まれている場合の表示について見る。オトの翻訳・モジの翻訳に倣い、相当する日本語の語彙に訳すことを、イミの翻訳とする。その上で、イミの翻訳による訳語、オトの翻訳とともにモジの翻訳がなされた近似音のカナ表記のいずれがよりわかりやすく有用かという観点から検討する。まず、キョンチャルピョンウォンという3号線の駅名を見よう。おそらく多言語表示の利用者であろう朝鮮語の知識のない人々にとってこの表示は、日本語「どづぞ」で暗号系とされる「乐しじねぺ好の滋味すだぜへ」(柳沢 2010:21)程度に珍妙な文字列である。ところで、この表示には、경찰병원에加え、キョンチャルピョンウォン・警察医院・National Police Hospitalと併記されている(写真5)。朝鮮語のわからない日本語話者の場合、日・漢・英の表示のうち、いずれを見るであろうか。

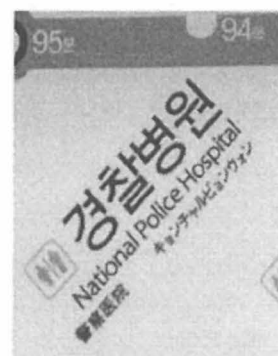


写真5 駅名表示4
(3号線B)

¹⁴ たとえば湯浅(2002:172-173)は미빔밥には少なくとも60通りの表記が存在すると指摘している。

¹⁵ さらに語頭の[k]を濁音で表記している。姓の権は日本漢字音読みでケンではなくゴンであるものの、権選手の場合、日本漢字音のカナ表記と見做すには名が朝鮮漢字音のカナ表記であることから無理があろう。

¹⁶ 湯浅(2002:174)は、「原韓国語音を意識した表記」がますます行われれば、何らかの表記の基準が必要とされそうであると指摘している。また、外国語固有名詞の表記について、漢語を取り上げて包括的に論じた明木(2014)は注目に値する。とはいえ、京義中央線的外곡의곡[dʒwa]などのように表記し難いものもある(写真2)。

暗号のような珍妙なカナの羅列より、英語の知識があれば英語の、漢語の知識がなくとも警察医院を jingchayiyuan ではなく、ケイサツイインと読んだとしても、「漢字の惑わし」(植田 2002:11)の問題はあるものの、警察医院という漢語の表示の方が目的駅への助けとしては相対的にわかりやすく有用なのではないか。もしくは意味のわからない珍妙な文字列のキョンチャルビョンウォンと日本語に訳した警察病院のいずれが表示されているほうがよりわかりやすく有用であろうか。가락시장・효창공원앞・서울역のように普通名詞を含む場合もこれに準ずると言える。それぞれカラクシジャン・カラク市場・可楽市場、ヒョチャンゴンウォンアプ・ヒョチャン公園前・孝昌公園前、ソウルヨク・ソウルリヨク・ソウル駅のいずれがわかりやすく有用であろうか¹⁷。また、ナンブターミナル(남부터미널)의 남부는、ナンブ・ナムブ・南部のいずれがわかりやすく有用であろうか。ホンディックなどのイック(入口)も同様であろう。

ヨンシンネ・ムアクチェなども固有語のネ・チェをそれぞれ川・峠などと訳すか否かが問題となる。漢語表示では朝鮮語の固有名詞の固有語について、ソウル(首尔)などごく一部の例を除き、音訳は行われないのでそれぞれ延新川・毋岳嶺とされている。この他、門(独立門)・宮(景福宮)・路(忠武路・乙支路)といった接尾語的に用いられるものの翻訳如何の問題もある。

上の例は漢字語や固有語の駅名であったが、外来語を含む場合も同様である。デジタルメディアシティ・コソクターミナル・ナンブターミナル等である。興味深いのは、デジタルメディアやターミナルは朝鮮語の外来語をカナ表記したティジタルミディオやトミノルではなく、日本語の外来語のデジタルメディアやターミナルに翻訳されている点である(写真2・6)¹⁸。とはいえ、高速をコソクとしたコソクターミナルの例は珍妙で、その有用性は如何ほどであろうか。

さらに、朝鮮語の略語をそのままカナ表記したためわかりにくい表示となったものがある。キョデ・ソガンデ・トンディック・ホンディックがその例であり(表3)、「デ」は大学の大を表している。

これらは、上のように大学の大に当たる部分を略して대としてい



写真6 駅名表示5
(3号線A)

교대	서강대	동대입구	홍대입구
キョデ	ソガンデ	トンディック	ホンディック
Seoul Nat'l Univ. of Education	Sogang Univ.	Dongguk Univ.	Hongik Univ.
首尔教育大学	西江大学	东国大学	弘益大学

表3 大学名を含む駅名の表示(4言語)

¹⁷ 효창공원앞の場合、漢語・英語ではそれぞれ孝昌公園・Hyeochang Park としており、「前」に当たる部分は訳していない。ただし、本論文の対象の路線図ではないが、漢語表示で孝昌公園앞(6号線孔徳駅駅名標の次駅表示)や高速터미널(3号線蚕院駅駅名標の前駅表示)のような朝漢混用の苦し紛れの表示も見られる。

¹⁸ 植田(2015:181-182)では、日本での朝鮮語表示について、同様のケースを指摘した。

る朝鮮語表示を下敷きに、日本語表示でそのままデとカナ表記した珍妙な表示である(キョデ・トンデ・ホンデは各大学の略称の教大・東大・弘大に当たる)。他方、漢語・英語は××大学・××Univ.というようにそれぞれの言語に訳している。ただし、入口に当たる留子は日本語ではオトの翻訳とともにモジの翻訳をなしてイックとするも、英語・漢語では訳していない。

朝鮮語のわからない日本語話者にとってもっともわかりやすく有用なのはどの言語の表示であろうか。あるいは、日本語表示はソガンデ・ソガン大・ソガン大学・西江大・西江大学のいずれで書かれているのが目的駅に無事到着するためにもっともわかりやすく有用であろうか。同様に、을지로 3 가はウルチロサムガ・ウルチロ 3 街¹⁹・ウルチ路 3 街・乙支路 3 街のいずれがもっともわかりやすく有用であろうか。

5. おわりに

以上、韓国の鉄道路線図での駅名の日本語表示を例に、同国の言語景観の一端を見た。最後に、2~4 章で見たソウル市の鉄道路線図の日本語の駅名表示における問題に日本での朝鮮語表示の問題(植田 2015)を合わせ鏡として念頭におき、わかりやすく有用であるという判断基準の下、多言語表示が「何のために設置されるのか?」という問いを考えてみる。

多言語表示には本来、その役割である「それを見た鉄道利用者に出発地点である駅から目的地である駅までのルートを示す」ために、わかりやすく有用であることが求められるはずである。しかし、朝鮮語が日本語に翻訳される際、(1)オトの翻訳とともにモジの翻訳がなされるにあたっての朝鮮語のカナ表記の規範の欠如、(2)オトの翻訳とモジの翻訳をなすのか、イミの翻訳をなすのかという方針の欠如、(3)イミの翻訳がなされる際の方針の欠如といった要因によって様々な不正確さ・不統一・珍妙さが生じていることがわかった。とりわけ公共の場の多言語表示の目的は、一義的には旅行者にせよニューカマーの定住者にせよ、言語能力の有無による不便さを解消し、利用者に便宜を図ることであると見られる。しかし、以上で検討したように、必ずしもわかりやすく有用な表示によってその意図が達成されているとは言えない。

わかりにくく有用ならざる表示が量産されるという現象は、表示物の表示内容があまり検討されずに、機械的に作成されている状況を示唆している。これは漢語表示で簡体字・繁体字ともに表示されている際、両者が同じ表示となる場合であっても、併記されるという冗漫性が見られることからわかる²⁰。

これには、いくつかの原因が考えられる。まず、韓国における日本語の社会的位置づけの問題がある。日本における朝鮮語の位置づけ以上に韓国での日本語は実用言語としての側面が強い。そのため、言語学的に体系的な教育に比してより実用的な側面に重点が置かれていると言えよう。また、日本語学習者は母語である朝鮮語に対して、学校教育で学ぶ国文法以上のものを通常持ち合わせていないと見られる。多言語表示作成という業務を行うのに必要な初歩的な

¹⁹ 漢字で表記した場合は「いつしろさんがい」などと日本漢字音で読まれることを前提としておく。また、3 街を 3 丁目などと訳すこともできるかもしれないが、ここでは措く。

²⁰ 日本語と漢語が共通の表記(語彙)になる場合は 3 つの同じ表記の表示が現れる。

日本語学・朝鮮語学・言語学、あるいは日朝対照言語学的な視点や知識を持ち合わせていないのが通常であろう。このような単なる母語話者が多言語表示産出のプロセスの各段階で関わっていると見られる²¹。さらに、「メシノタネ」としての言語(植田 2015)という問題がある。韓国における日本語についても、それが利益をもたらす「メシノタネ」としての言語であるにも拘わらず、それをを用いる業務で相応の責任意識が欠如している場合がある。

これらの要因が、不正確さ・不統一・珍妙さが散見される日本語表示を日々産出していることになる。しかしながら、わかりにくく有用ならざる多言語表示の産出の要因は、上述のような日本語を巡る状況のみによるものであろうか。田中・上倉・新坂(2008:81-82)では、多言語表示を「実質言語」と「イメージ言語」²²に分けて捉えている。田中(2009:21)では後者を「商品や店舗、ブランド名などを主として「外国語」をアクセサリのように用いるイメージ言語」と定義するが、これを敷衍すれば、多言語表示の設置はそれ自体が多言語表示推進、多文化共生推進といった善なる目標を象徴する一種の「イメージ言語」の役割を果たしているらしいことがわかる。それにより、利用者の便宜という観点は、「あれば役立つ場合もある」という程度の「正確さ」のレベルで実現されるという現状に帰結しているのではないだろうか。本来、一義的であるはずの利用者の便宜の優先順位は、意識的にせよ無意識的にせよ「イメージ言語」より下位に押しやられている実情が見える。

とはいえ、これがトップダウンで解消される問題でもないことは、例えば東京都が公開した「指差し会話シート」(多言語メニュー作成支援ウェブサイト)²³の朝鮮語版に分かち書きの誤りや訳語の不統一・不具合が散見されること²⁴からも言える。しかし、このようなツールでも「ないよりあるほうが有用」という場合もあるのだろう。つまり、多言語表示というものは、せいぜい「あれば役立つ場合もある」という程度の性質・役割のものであるのかもしれない。

引用文献

- (朝鮮語文献は日本語訳で示して末尾に＊を附記、漢字表記の朝鮮名は日本漢字音により配列)
明木茂夫(2014)『中国地名カタカナ表記の研究』東方書店
磯野英治(2011)「韓国における日本語の言語景観」中井精一・ロング, ダニエル『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房
市島佑起子(2011)「韓国地方都市の言語景観」中井精一・ロング, ダニエル『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房
井上鎮雄(1984)「チョン・ドゥホアン大統領訪日と原音読みの周辺」NHK 放送文化調査研究所

²¹ 日本の朝鮮語表示に関しては、とりわけ地方都市等の場合、規範や朝鮮語学・日本語学・言語学等の初歩的な知識のない単なる母語話者である自治体の国際交流員等がその言語文化を代表するかのように扱われ、表示内容の決定を行っている場合もあるのではないかと思われる。母語話者「信仰」がその要因の一つであろう。

²² 柳沢(2010)では、同じような性質の「どづぞ」を「デザインエレメンツ系」と名付けている。

²³ http://www.menu-tokyo.jp/menu/talksheet/data/guide_ko.pdf (2015年4月13日最終接続)

²⁴ 이다が分かち書きされている、連用形と補助動詞주다の分かち書きが不統一である、調理方法を表す動詞の連体形の日本語訳が「焼いた」を除き現在形であるなど多岐に渡る。

- 『放送研究と調査』1984年10月号、日本放送出版協会
- 植田晃次(2002)「言語呼称の社会性」『社会言語学』II、「社会言語学」刊行会
- 植田晃次(2003)「固有名詞の翻訳」『批判的社会言語学の諸相』大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科
- 植田晃次(2009)「韓国社会の多民族化・多言語化と単一民族・単一言語国家意識との相克」『批判的社会言語学の実践』大阪大学大学院言語文化研究科
- 植田晃次(2010)「韓国の外国人向け朝鮮語講座番組とそこに表れた女性結婚移民者像」『批判的社会言語学の展開』大阪大学大学院言語文化研究科
- 植田晃次(2014)「国立国語院企画『結婚移民者とともにする朝鮮語』から見た大韓民国における結婚移民者観の変化」『批判的社会言語学の展望』大阪大学大学院言語文化研究科
- 植田晃次(2015)「「どづぞ」な多言語表示から見る商品化された「やさしさ」 義永美央子・山下仁『ことばの「やさしさ」とは何か』三元社
- 梅田博之(1989)「韓国語の片仮名表記」加藤彰彦『講座日本語と日本語教育』9、明治書院
- 韓国社会言語学会(2012)『社会言語学辞典』疎通＊
- キム＝ランギ 研究責任者(2006)『言語景観造成長期計画研究』韓国建築歴史学会＊
- 庄司博史(2006)『まちかど多言語表示調査報告書』多言語化現象研究会
- 庄司博史・バックハウス, P.・クルマス, F. (2009)『日本の言語景観』三元社
- 成順済(1990)「ソウル市幹線道路沿の業種別分類」慶熙大学校教育大学院碩士学位論文＊
- 田中ゆかり・上倉牧子・新坂望(2008)「東京圏の多言語表示」『語文』131、日本大学国文学会
- 田中ゆかり(2009)「首都圏の多言語表示」『日本語学』2009.5 臨時増刊号、明治書院
- 中井精一・ロング, ダニエル(2011)『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房
- 長尾徹・柴田吉隆(2002)「鉄道路線図の位相図化と覚えやすさの基礎的研究」『地図』40(2)、日本国際地図学会
- 朴正姫(1990)「光州市中心街言語景観」全南大学校大学院碩士学位請求論文＊
- 柳沢有紀夫(2010)『世界日本誤博覧会』新潮社
- 湯浅茂雄(2002)「外来語の表記」飛田良文・佐藤武義『現代日本語講座』6、明治書院
- 李舜炯(2011)「看板表記にみる現代韓国の言語景観」中井精一・ロング, ダニエル『世界の言語景観 日本の言語景観』桂書房
- 梁敏鎬(2010)「日本と韓国の言語景観に関する事例研究」『日本語文学』44、韓国日本語文学会
- 梁敏鎬(2011)「多言語景観の意識に関する日韓対照研究」『日本語文学』50、韓国日本語文学会
- 梁敏鎬(2012)「公共施設物の表記意識に関する韓日対照研究」『日本語教育研究』44、韓国日語教育学会＊
- 梁敏鎬(2013a)「日本と韓国の言語景観に関する研究の行方」『明海日本語』18 増刊、明海大学日本語学会
- 梁敏鎬(2013b)「韓国と日本の言語景観資料を通して調べた言語の多様性に関する研究」『日本語文学』26、韓国日本言語文学会＊